

二〇二六年度 茨城キリスト教大学一般選抜入学試験 一期

国語

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

「どうして本を読まないといけないの？」

子どもに「^xどうして本を読まないといけないの？」とたずねられたら、みなさんはどうお答えになるでしょうか。かつてはよく「いろんなことが学べるから」と言ったものですが、この答えは、いま、ほとんど通用しなくなりました。「いろんなこと」、すなわち「知識」なら、テレビでもある程度得られますし、たいていのことについては、インターネットのほうの手つとり早くて便利だからです。

あまりにも膨大で、あてにならないものもずいぶん含まれているので、それを「読みこなす」には特別な力が必要です。でも、そのことを気にしなければ、たしかに、知識を得るにはテレビとネットがあれば、一応事足りるのかもしれませんが。

「どうして本を読まないといけないの？」と問いかける子どもに対して、かつての大人が用いたもうひとつの論法は、「本は楽しいよ」ということでした。しかし、テレビアニメやゲーム、ネットでの通信などの楽しみが子どもたちを取り巻いているいま、これもまた、むなしい呼びかけになってしまいました。

「本を読めば、文字が覚えられるよ」というのも、かつてはときどき使われた論法でした。たしかに、テレビばかり見ている子どもになら、いまでもこの論法はある程度有効かもしれません。しかし、ネットだと文字は結構使いますし、ゲームでも、ものによっては使うようです。それに第一、まったく本を読もうとしない子どもたちでも、学校の教科書やテストの問題などは読んでいます。以前、『読む力は生きる力』で、高校時代に「字は読めるのに本が読めないという、なんとも言えないつらさと恥ずかしさ」を味わった、とレポートに書いてくれた大学生のことをご紹介しましたが、本を読まない子どもたちも、ふだんの生活で必要な b くらいは、楽に読みこなしているのがふつうでしょう。

では、「本を読む」ということをしないと得られないものとは、いったい何なのでしょう。それはまず、思考力と想像力の働きです。アニメやゲームなどは、主に映像のつらなりですから、想像力は不要ですし、映像は勝手に展開していつてくれますから、思考力を駆使しなくても、ただ見ていただけでおおよそのことはわかり、ひととおり楽しむのには不自由しません。それに対して、主に文字で書かれた本は、文字を読んでそれに含まれている情報を拾い集め、思考力を使って情報を整理し、それに基づいて想像力を働かせるところまで進まないで、楽しむことはできません。子どもの本にはたいてい想像の核になるような挿絵さしえがついていますが、それを立体化させ、動かし、生命を吹きこみ、描かれていない場面へも押し広げていくのは、読み手の想像力の働きなのです。

新しい本を読みはじめるのは、読書に慣れていてもかなり億劫おっくうなものです。それは、想像力が情報を消化しはじめるまでは、雑多な情報がどんどん増えていき、整理に追われるばかりだからです。でも、情報整理がある程度進み、「どんな場所か」「どんな人物か」などということが多少ともつかめてくれば、読んだことを記憶するのは、はるかに楽になります。自分自身の印象的な体験というのは、記憶しようと努力しなくても覚えていられるものですが、物語のなかの出来事も、想像力が働きだせば自分自身の体験の記憶に似たものになり、それを土台にすれば、新たに加わってくる情報がずっと整理しやすくなるからです。そこまでたどり着くのは、慣れないとたいへんですが、幸い本の場合は、映像のように勝手に展開していくわけではありませんから、混乱したら立ち止まって考えたり、前にもどって確認したりすればいいのです。そうするうちに、想像力が働きはじめ、読むのがおもしろくなってくれば、思考力を使う情報整理も不思議なくらい楽になって、どんどん読み進めていけるようになります。

シンプルな物語の場合、読者は物語の舞台となる場所を把握し、人物たちの動きを思い浮かべ、会話の言葉や心のなかの言葉を聞くだけです。描写が厚みのあるものになっていくにつれて、言葉以外の物音が聞こえ、味や匂いが感じられ、触感や空気感までが味わえるようになっていきます。

c 「その世界に吹く風を感じる」といった感覚です。また、主人公や語り手の複雑な心情が、まるで自分自身の思いのように心にのしかかってくることもあります。

ありがたいのは、そんなふうを読むことが苦にならない段階にさしかかっても、d をする思考力、それを自分自身の記憶のようなものへと変換する想像力は、ちゃんと仕事を続けているということです。先へ先へと読み進めるにつれて、記憶すべき「それまでのお話」はどんどん長くなりますが、それを覚えていられるのですから、記憶力も鍛えられているわけです。

そうやって鍛えられた記憶力や思考力、想像力は、生きていく上でおおいに役に立ちます。生活や仕事に必要な情報を得るのにも、人とかかわって

いくのにも、この先起こることを予測するのに、これらの力は必要不可欠です。特に重要なのが想像力で、それも、シンプルなレベルではなく、さまざまな感覚や心情にも及ぶ高度な想像力を鍛えておけば、「ごまかしやずさんな計画などに「おかしいぞ」と気づく力にもつながります。なぜなら、想像力は矛盾があるとつまずくからで、想像力がつまずいたら、そこには矛盾がひそんでいる可能性があるとわかるからです。その点映像は、有無を言わさない現実感を持っているので、矛盾や不自然さを含んでいても、そのまま受け入れてしまいやすいのが、非常に大きな問題です。目の前に存在している映像の矛盾や不自然さに気づくためには、しっかりと鍛え上げられた思考力や想像力が必要で、それにも本を読むことが役に立つということになります。

e とはちがって、ネットの場合は、検索にある程度思考力を使いますし、文字情報を読むことが多いので、ずっといいように思えますが、問題は、ネット上の文字情報の読み方は、もっぱら「流し読み」「拾い読み」だということです。「流し読み」「拾い読み」で事足りるのは、私たちがネット検索をするときは、「このことを知りたい」ということがおおよそわかっている、いわば、f の欠落部分を埋める断片を求めているにすぎないからです。コミュニケーション・ツールとしてネットを使う場合でも、決まり文句のやりとりが大半を占め、「端から丹念に読む」という作業は、ふつう必要とされません。それに対し、ある程度長さがあつて、挿絵だらけでない本を讀んでいこうと思つたら、ひとつひとつの言葉を丹念にたどつて情報を整理し、それをもとに想像力を働かせなくてはなりません。そういう読み方と、「流し読み」「拾い読み」とでは、頭のなかで起こることがまるでちがうのです。

もちろん私たちにとって、本を読むことの目的は、知識を得ることだったり、楽しむことだったりするのがふつうです。しかしその本が、「流し読み」や「拾い読み」ではすまない本、ちゃんと言葉をたどりながら思考力や想像力を働かせれば、求める知識や楽しみがしっかりと得られる本であれば、私たちは、求めたものを得ると同時に、記憶力や思考力や想像力が鍛えられるというプラス・アルファ、生きる力の基本としても大切なプラス・アルファを、知らず知らずのうちに受け取ることができるのです。だからこそ子どもたちには、ぜひとも本を讀んでほしいのです、それも、

あ

ではない読み方で讀んでほしいのです。

(脇明子『読む力が未来をひらく——小学生への読書支援』より なお本文に適宜省略・改変を加えた)

問一 空欄 a f に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

a	ア だから	イ なぜなら	ウ たとえば	エ もっとも
b	ア 情報	イ 文字	ウ レポート	エ 本
c	ア いわば	イ さらに	ウ むしろ	エ あるいは
d	ア 情報収集	イ 情報発信	ウ 情報整理	エ 情報開示
e	ア 本	イ 映像	ウ 小説や物語	エ 現実の世界
f	ア 知識	イ 常識	ウ 思考力	エ コミュニケーション

問二 傍線部X「どうして本を読まないといけないの?」について、この問いに対する大人たちの答えについて筆者はどのように考えていますか。その内容として最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア この問いに対する大人たちの答えはいくつもあるが、それらはどれも説得力があり、「いろんなことが学べるから」のような答えを除いて、その多くは現在でも十分通用するものである。

イ この問いに対して大人たちはこれまでさまざまな論法を用いて答えようとしてきたが、そうした答えはどれも説得力に欠けていて、子どもたちが納得できるようなものはほとんどなかった。

ウ この問いに対して大人たちはこれまでさまざまな論法を用いて答えてきたが、テレビやゲーム、インターネットなどの普及によって、現在ではそうした答えはほとんど通用しなくなってきた。

エ この問いに対する大人たちの答えはこれまであまり説得力がなかったが、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化した現代社会では、そうした答えが強い説得力を持つようになってきた。

問三 空欄 あ に入れるのに最もふさわしい言葉を、本文中から十三字で抜き出しなさい（記号なども字数に含まます）。

問四 筆者が「本を読むこと」が大事だと考えているのはなぜですか。その理由を「想像力」という言葉を使って七十字以内で答えなさい（句読点なども字数に含まます）。

問五 次の1～6の文について、本文の内容にふさわしいものには○を、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 アニメやゲームや映像などとはちがって、本というものを楽しむには思考力や想像力を働かせることが必要である。
- 2 新しい本を読みはじめるのが億劫だと感じるのは、読書とはもともと楽しむことを目的とした行為ではないためである。
- 3 本は、情報を整理しきれなくて混乱したようなとき、立ち止まって考えたり前にもどって確認したりすることができる。
- 4 読書は、人間が生きていくなかで直面するさまざまなものごとの矛盾や不自然さに気づく力を養うことにも役に立つ。
- 5 インターネットを使うときには本を読むときと同様、そこに書かれている内容を「端から丹念に読む」ことが大事である。
- 6 現代社会にはインターネットや映像など便利なものがたくさんあるため、これからの子どもたちは本よりもそうしたものを積極的に活用していくべきである。

Ⅱ 次の各問に答えなさい。

問一 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 大きな組織がブンレツする。
- 2 ある程度の結果でダキヨウする。
- 3 植物の生長をヨクセイする。
- 4 友人の申し出をシヨウダクする。
- 5 身の周りの人々をアザムく。

問二 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 全国大会で惜敗する。
- 2 肥沃な大地が広がる。
- 3 清澄な空気に包まれる。
- 4 新しい鉄道を敷設する。
- 5 彼女は語学力に秀でている。

問三 次の1～5の四字熟語の□に当てはまる漢字を書きなさい。

- 1 前代未□
- 2 旧態□然
- 3 □機応変
- 4 試行□誤
- 5 新進気□

問四 次の1～5の語句の表す意味として最もふさわしいものを、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

1 傾注

- ア 一つのこと熱中すること
- イ 言動が矛盾していること
- ウ 相手の気持ちを考えること
- エ ものごとを慎重に進めること

2 囑望

- ア 失敗してひどく落ち込むこと
- イ 人の将来に大きな期待をもつこと
- ウ 多くの人々から信頼されること
- エ 他人に頼ってばかりいること

3 灰聞そくぶん

- ア 初めて聞くこと
- イ うわさに聞くこと
- ウ 繰り返し聞くこと
- エ 密ひそかに聞くこと

4 善後策

- ア 常識に従った正しいやり方
- イ 誰もが知っているありふれた方法
- ウ うまく後始末をするための手段
- エ これまでにない新たな方式

5 研鑽けんざんを積む

- ア 深く考えないで他人の言動に同調する
- イ 見聞きしたことをしっかりと記憶する
- ウ 同じような失敗を何度も繰り返す
- エ 学問や技能を深く究めるために努力を重ねる

問五 次の1～5の単語の対義語をそれぞれ後の【語群】から選び、記号で答えなさい。

1 冗漫

2 勃興

3 顕在

4 厭世えんせい

5 奢侈しゃし

【語群】

オ	ア
潜在	楽観
カ	イ
多弁	実在
キ	ウ
憂慮	簡潔
ク	エ
衰退	質素

国語解答用紙

I

問一	a
	エ
	b
	イ
	c
	ア
	d
	ウ
	e
	イ
	f
	ア

問二	ウ
----	---

問三	「流し読み」
	「読み」
	「や」
	「拾い読み」

解答例

問四	も	力	得	し	本
	で	や	る	み	を
	き	思	こ	な	読
	る	考	と	ど	む
	か	力	が	自	こ
	ら	や	で	分	と
	。	想	き	が	に
		像	る	必	よ
		力	と	要	っ
		を	同	と	て
		鍛	時	す	、
		え	に	る	知
		る	、	も	識
		こ	記	の	や
		と	憶	を	楽

問五	1
	○
	2
	×
	3
	○
	4
	○
	5
	×
	6
	×

II

問一	1
	分裂
	2
	妥協
	3
	抑制
	4
	承諾
	5
	欺
	く

問二	1
	せきはい
	2
	ひよく
	3
	せいちょう
	4
	ふせつ
	5
	ひい
	でて

問三	1
	聞
	2
	依
	3
	臨
	4
	錯
	5
	鋭

問四	1
	ア
	2
	イ
	3
	イ
	4
	ウ
	5
	エ

問五	1
	ウ
	2
	ク
	3
	オ
	4
	ア
	5
	エ

総計

小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計

受験番号